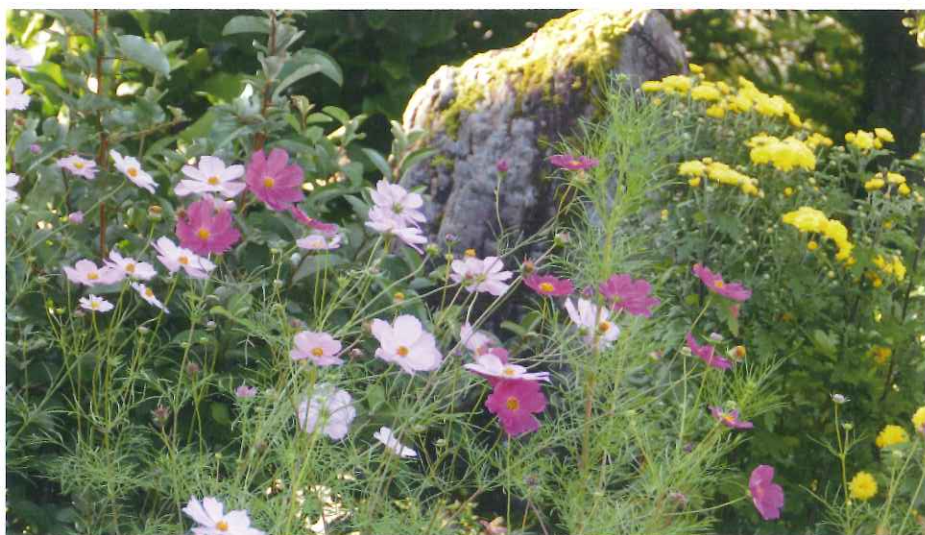




発行
八尾市民生委員
児童委員協議会
会長 谷岡久枝
〒581-0003
八尾市本町2-4-10
☎991-1161
編集 広報部会



水呑地藏境内(八尾市神立)



色の競演

撮影者：石井広報部会員

目次

P1	表紙
P2～P4	特集：100周年を迎えて
P5	専門部会活動報告

P6	リレー投稿／趣味
P7	地区研修だより／座右の銘
P8	表彰／あとがき

特集

100周年を迎えて

スローガン 100周年

「支えあう 住みよい社会 地域から」

以下の3項目を[100周年活動強化方策]における活動の重点として取り組んでいくこととします。

重点 1

地域のつながり、地域の力を
高めるために

重点 2

さまざまな課題を抱えた人びとを
支えるために

重点 3

民生委員・児童委員制度を守り、
発展させていくために

インタビュー

この機会に、谷岡会長と伊賀副会長にいろいろお聞きしました。

(聞き手・浅井広報部会長、山下広報副部会長)

今年は記念の年ですね

谷岡会長

現在は、担い手不足に困っている民生委員・児童委員だが昔の先輩方は大変な思いをされてこの民生委員制度を創られた。

この民生委員制度を私たちがこれからも引き継いでいかなければならない。

創設してから100年経ち、



谷岡会長

昔と比べて社会情勢も大きく変化したと思う。

これからは各種団体と協力しながら地域を支えていかなければならない。

伊賀副会長は今回100周年大会に参加されてどう思いますか。

伊賀副会長

今回100周年大会に参加してみても、改めて思ったことは、民生委員・児童委員の原点に戻ってみてはどうかだった。

原点がなにかと言うと「志」ではないか。

民生委員制度創設時は生きることでも大変な時代であったと思う。

「自分たちがなんとかしていかなければならない」という思いがあったはず。

今も昔も生活困窮者はいる。社会情勢が変化し、生活困窮者課題だけでなく、高齢者や障がい者の課題もあり、民生委員・児童委員としてこれらからどんなことができるのか。これからは行政にも働きかけて、弱者視点と正義の視点



伊賀副会長

で変えていかなければならないように思う。

谷岡会長

私たち、民生委員・児童委員だけではむずかしいので、他団体とも協力しあい、行政の方にも中に入ってもらって話し合いのような場を設けてほしい。

お互い住みよいまちづくりを目指しているのだから。

環境が変化しているのので、変化に合わせて民生委員・児童委員活動も変化していかなければならない。

そのためにも他団体との一層の協力は必要である。

伊賀副会長

連携の重要性については、

よく言われることだが、連携できる仕組みがあるのか、誰がコーディネートをするのかなどの、システムづくりが大切だと思う。

これからどんな取組みを?

谷岡会長

行政の方が連携しないといけないという話はされるが、具体的にどうすればよいのか、なかなか話が進まない。

民生委員・児童委員だけが頑張っても、他団体からは「かつてなことをしている」みたいなことになりかねない。行政がルールをつくってもいい。

民生委員・児童委員になったからには精一杯のことはやりたいので、行政からもっと関係団体間の協力を促してほしい。

伊賀副会長

地域の中をまとめていくのはどこになるのか。

地域を主導する組織が地域によって異なるために、市全体や地域ごとの方向や施策に違いが出てくる。

地域による特徴が出てくるという良い点もあるのだが。

民生委員制度創設時は、リーダーが模索しながらルールを引いていた。しっかりとリーダーがいて、みんながついていったという良い面は学びたい。

そのために必要なことは?

谷岡会長

当時のやり方と同じことをしようとしても、時代も考え方も変化しているので、できないことも出てきます。

時代に合わせてどのような支援体制が必要なのかを考えるべき時だと思います。

伊賀副会長

個人情報保護を優先するあまり、助けられる人も助ける



浅井広報部会長



山下広報副会長

ことができないということとは、あつてはならないと思う。

今、大切なのは困っている人を助けることではなく、個人情報保護だという風潮になつてはいけないと思う。

「要支援者支援」については、今後、民児協としても行政や地域の各団体とも十分な協議を重ねて、どう行動すべきかのコンセンサスを得ていきたいと思っています。

時代に沿った協働が大切ですね

谷岡会長

さまざまな課題を抱える人びとが増加するなか、一部の関係者の活動だけではその支援、課題解決が困難です。

地域力の基盤ともなる「福祉委員会」や「まちづくり協議会」と民生委員・児童委員が行政と連携し、地域住民がそのつながりを強化し住民同志が互いに支え合うことで「地域力」を高めることが大切だと思います。

100周年大会感想

伊賀副会長

民生委員制度創設100周年記念・全国民生委員・児童委員大会に参加しての感想
7月9日から10日の2日間に渡り、参加させていただきました。

その時の感想をいくつか述べたいと思います。

まず、全国から民生委員・児童委員が1万人も集まったことで、あらためて、これだけの仲間が、全国で活躍し頑張っているのだという感動と元気をもらいました。

また、天皇皇后両陛下のご臨席を賜わり、真摯なお姿に感銘を受けました。

記念講演は、諏訪中央病院名誉院長・医師・作家である

鎌田實氏の「あたたかい社会をつくる」でした。

苦難の少年時代、近所の人たちから受けた援助などを通じて、相手の身になって考える、一緒にごはんを食べるだけで何かが変わる、1%は誰かのために生きたいなどという話をされた。

民生委員活動における弱い立場の人たちの支援を100年続けてきたことはすごいこと。

これからも、一層必要になるだろう。

希望の日本のあるべき姿。障がいを持つても、希望の持てる国にしようではないですか。

今後の皆さんの活躍を期待しますと結ばれた。

共感もしましたし、努力したいと思いました。

2日目は「これからの民児協活動に向けて」のテーマでの研修を受けました。

「支えあう 住みよい社会 地域から」のスローガンにも、民生委員・児童委員活動の課題と強化方策が述べられています。

これらを十分に読み取り、理解して今後の活動に活かしていきたいと思っています。

主任児童委員部会長

森下 明美

昨今、民生委員・児童委員の活動が多様化するなかで負担の拡大、担い手不足などが課題となっています。どこまでどのような活動をしたらいいのか戸惑うことがあります。

「したいこと」「出来ること」「求められていること」を確認し、活動のための知識と技術を高めていくことが必要です。社会福祉協議会・専門機関が、ともに情報交換し、支えあう体制を築くことが活動の前提であると改めて学ばせていただきました。



上段左側から 清水 広喜、森下 明美、谷岡 久枝、高橋 博子、川崎 吉継、伊賀 滋、小角 汎、岩崎 克伸
下段左側から 浅井 守、植田 能生、吉田 允侃

専門部会活動報告

児童福祉部会

児童福祉部会は7月4日（火）、八尾商工会議所3階大ホールで、112名の参加者のもと「児童虐待の現状と対応」をテーマに研修しました。森下主任児童委員の司会で冒頭、川崎副会長は「本日のテーマはプライバシーの問題も関わり対応には大変難しい

内容です。普段の活動の参考になれば幸いです」と挨拶されました。また、中野部会長は「期が変わり新たな委員の方も多いため、活動中の問題の相談窓口を知ってほしい」と研修会の趣旨を説明しました。

講師の山本太郎氏は自身の所属部署を「八尾市こども未来部子育て支援課子育て総合支援ネットワークセンター」と長い名称ですが、電話189でも繋がります。早い対応が必要ですので気軽に連絡してほしい」と説明。

講演は、虐待の種類や子供への影響など事例を含めて解りやすく解説。また、「0歳から2歳ぐらいの赤ちゃんへの虐待件数が多い。居場所が自宅の中で過ごす時間が長いことが要因と思われるため、はとぽっぽなど地域の子育て支援活動に参加していただけるよう声を掛けてほしい」と民生委員・児童委員の皆様に協力を依頼しました。

講演に対してのアンケートでは・・・

- ・アンケート結果（抜粋）
- ・児童委員さんがかかわってこられた人の話も聞きたかったです。
- ・具体例をもう少し挙げてもらい、対応された過程を話して欲しかった。

その他の意見、研修に取り上げてほしいこと

- ・発達障害、里親支援、子ども食堂、学習支援の状況、子どもの貧困。

天候、足元の悪い中多くのみなさまのご参加をいただきありがとうございました。



研修会 風景①



研修会 風景②



虐待かと思ったら

全国共通ダイヤル **189** 番へ

●お近くの児童相談所につながります。●一部のIP電話からはつながりません。●通話料がかかります。●連絡は匿名で行うことも可能です。連絡先や連絡内容に関する秘密は守られます。

近頃の児童相談所は **全国児童相談所一環** 体制

滋賀県 京都府 大阪府 兵庫県 奈良県 和歌山県 京都市 大阪市 堺市 神戸市

公益財団法人 日本公衆電話会はオレンジリボンの周知活動に協力しています。



オレンジリボン啓発ステッカー



買い物公園にて

八尾といえば河内音頭。私は連のひとつで八尾河内音頭全国発信隊でもある「かわち撫子会」に所属しており、毎年、あちらこちらに踊りに出かけます。はじまりは平成2年に習い始めた日本舞踊。当時、山本にあった労働会館で

習っていました。その先生が河内音頭も教えておられたのがきっかけでした。パレードには20年ほど前から毎年参加しており、最初に参加した時は八尾小学校から買い物公園までの道のりを踊ったのを覚えています。今年



は、「八尾河内音頭まつり」が40回目の節目を迎えることもあり、例年以上にあちこち練習に行きました。先日行われたパレードにも参加し、市政だよりの紙面を飾ることもできました。これからも元気いっぱい踊り続けていきたいと思っています。

趣味

西川 典子
(山本第二)

私は美味しいものを食べることが大好きだ!! U.S.Jで楽しむことと同じくらいストレス解消にもなる。話題になった人気店にも行ってみる。友だちや娘となら2時間並ぶことくらいは苦にもならない。それに附随して美味しい料理を作ることも好きである。まだ添加物が云々と言われていなかった35年も前から、子供



手作りケーキセット

たちには無添加のバースデイケーキを手作りした。またいろいろな知識も必要...とお料理を習い始めてもう29年が過ぎた。

今、地域のふれあい喫茶でケーキや水羊羹・クリームあんみつなどを手作りしている。皆さんに喜んでいただながら私自身も楽しませてもらっている。

料理は本当に奥深い。まだまだ日々勉強中である。



ふれあい喫茶サロン「さくら」の皆さん



手作りあんみつセット



志紀地区の施設見学会

今年度の研修会は地区内にある高齢者福祉施設の見学会とした。8月8日、夜半の台風通過が心配されたが、少し進路が逸れてくれ予定通りに決行。最初の訪問先は「あぷり志紀」という、いわゆるサ高住といわれる介護付き有料

志紀地区委員会

小角 汎

老人ホームで、地元でも知名度が高い。居住環境は入居者に優しくバリアフリーに設備されていた。なかでも、24時間個別見守りシステムには、一同感心させられた。引き続き、JR志紀駅から東へ徒歩15分に位置する「楽寿」へ。地域密着型の高齢者施設、この4月から新しく当中学校区の地域包括支援センターも担っていたにいたっている。定員29名と小規模であるがオール個室。パブリック施設も家庭的な温もりを感じた。2ヶ所、駆け足の見学会ではあったが、高齢者福祉施設を勉強し、現場を実感するいい機会であった。

地区研修だより

曙川地区委員会

中野 眞也

曙川地区の今年度の研修は、地域包括支援センタースタッフによる認知症研修や新年度のため、活動記録の記入の仕方などを勉強しました。これまで委員から、特殊なケ

ースの相談が多くなっているようです。今後も事例を基にどんな対応をしたらいいのか、地域包括支援センターと相談しながら情報の共有を図っていきたいと考えています。

民生委員・児童委員の活動が地区の行事で大変忙しい実情があり、特別時間を設定して研修するのは難しい。地区委員会の後に交流や勉強会を検討したい。

座右の銘

「自分に強くなれ 自分に負けるな」

自分がやらなかったら、だれがやるといふ精神です。

坂上 耕造(南高安)



表彰

おめでとう

ございます

(※は退任者)

☆厚生労働大臣特別表彰

(29.5.12)

※吉澤 経子 (八尾)
 ※正津 時二 (用和)
 ※植田 紀一 (山本第一)
 ※高橋 邦世 (山本第二)
 ※大垣 亘子 (山本第二)
 ※武田 全子 (山本第二)
 ※竹中 和子 (山本第二)
 ※池田 由利子 (山本第三)
 ※芋野 志津子 (山本第三)
 ※中川 頌子 (山本第三)
 ※京谷 榮三郎 (山本第三)
 ※森川 均 (龍華)
 ※津田 悠紀子 (龍華)
 ※浅野 初代 (龍華)
 ※岡井 正治 (久宝寺)
 ※男座 良昭 (高砂)
 ※田中 正子 (南高安)

◎優良民生委員表彰

(29.5.12)

倉角 京子 (山本第三)
 石橋 益夫 (安中)

☆平成29年全国民生委員
 児童委員連合会会長表彰

(29.7.9)

山村 壽満子 (久宝寺)
 藤田 克博 (高砂)
 松浦 季子 (高砂)

阪上 美智子 (八尾)
 谷岡 勢津子 (八尾)
 小林 有美子 (八尾)
 藤本 恵美子 (八尾)
 山本 薫 (八尾)
 清水 広喜 (八尾)
 丸山 和巳 (八尾)
 中村 四男 (八尾)
 加仲 佳子 (八尾)
 福井 甫充 (八尾)
 西村 郁子 (八尾)
 寺垣 慎一 (八尾)
 石川 恵美子 (用和)
 岩井 和子 (用和)
 山口 隆之 (用和)
 徳光 正男 (用和)
 谷元 千津子 (用和)
 中村 保 (用和)
 奥田 住夫 (用和)
 白川 良明 (用和)
 竹元 紀子 (用和)
 櫻田 詔子 (用和)
 和田 眞奈美 (用和)
 井戸本 恵子 (山本第一)

小坂 明美 (山本第一)
 吉田 允侃 (山本第一)
 田代 幸子 (山本第一)
 黒野 美鈴 (山本第一)
 宮本 ふさへ (山本第一)
 吉村 とみ子 (山本第二)
 西川 典子 (山本第二)
 高山 晴行 (山本第二)
 松本 弘子 (山本第三)
 上田 邦子 (山本第三)
 竹ノ株 宏美 (安中)
 清本 邦仁 (安中)
 津田 泰秀 (安中)
 高田 壽賀子 (安中)
 竹島 勝子 (安中)
 石井 光弘 (安中)
 久野 博康 (龍華)
 林 芳夫 (龍華)
 田中 富美 (龍華)
 森本 史子 (竹淵)
 中谷 一 (龍華)
 三木 晴子 (竹淵)
 佐伯 清子 (竹淵)
 北野 和世 (竹淵)
 森下 明美 (竹淵)
 ※山本 妙子 (久宝寺)
 横山 久美子 (久宝寺)
 山村 壽満子 (久宝寺)
 山崎 良子 (久宝寺)
 川北 浩司 (大正)
 竹田 勝介 (大正)

退任者

お勤めご苦労さまでした

井上 昌子 (29.5.31)
 山本 妙子 (29.8.31)
 白石 隆二 (29.9.30)
 井戸本 恵子 (曙川)

小山 協子 (大正)
 木野 克子 (大正)
 川島 美江子 (大正)
 藤田 重治 (大正)
 中川 恵子 (大正)
 中川 治 (西郡)
 林田 和郎 (西郡)
 安田 豊美 (西郡)
 藤岡 憲明 (西郡)
 水口 由紀 (西郡)
 南田 頼子 (西郡)
 平川 浩二 (西郡)
 田中 カズエ (高砂)
 辰巳 順一郎 (南高安)
 渡瀬 弘美 (南高安)
 藤原 英明 (南高安)
 阿野 美榮子 (曙川)
 的場 恵子 (曙川)
 石井 光子 (志紀)
 小角 汎 (志紀)
 新坂 清美 (志紀)

委嘱

今後ともよろしく

森口 隆信 (29.8.1)
 貴島 秀樹 (29.10.1)
 水谷 章 (山本第二)
 村上 由加里 (安中)
 大賀 由美 (志紀)

あとがき

第71号風知草は、民生委員制度100周年を記念して特集しました。

今年は、大正6年岡山県で創設された済世顧問制度。来年は、大正7年に大阪府で創設された方面委員制度100周年を迎えます。

谷岡会長および伊賀副会長へのインタビューでは、特に「原点に戻って」という言葉には考えさせられました。

また、専門部会の研修会の報告とアンケートを元に参加者の意見等を記載することができましたと思います。

皆様の快いご協力と熱意で発行することができました。

広報部会一同